

# 平成二十一年度三年生研究発表会発表題目 (氏名 発表題目)

【23号教室】

〔村田ゼミ〕

長谷 夏美

『夜の寝覚』における「すずろ」と「そぞろ」の意味用法の違いについて

〔灰谷ゼミ〕

青田 浩子

多方言共生社会における方言意識と方言使用

―尾道大学の異なる出身者間の方言調整―

整―

諏訪まり子

方言談話におけるコードスイッチング

―話題と時間の経過による意識のほころび―

上西奈都美

雑誌名にみられる文字表記の変遷と社会的背景について

福岡 委子

カタカナ英語の形容詞的表現にみられる意図と効果

山本 咲

映画広告のキャッチコピーにおける類型小説の映像化における言語的操作について

吉原 涼子

Mr.Childrenの歌詞における語彙の意味

西牧 里紗

分野と文字種について

〔熊本ゼミ〕

武元 絵美

『とりかへばや物語』表現について  
堤中納言物語「はいずみ」について

南葉さおり

―二人妻説話の中の位置づけ―  
「をかしげなり」から見る『落窪物語』

中本めぐみ

勅使川原彩  
「竹芝寺伝説」の姫宮に菅原孝標女は何を見たのか

〔藤川ゼミ〕

庄部美希子

覚一本『平家物語』の構成における一側面―平基盛という人物の「消去」を糸口に―

〔藤沢ゼミ〕

服部 真衣

『為兼折句歌』考察  
翻刻『敵討猫魔屋敷』

有村 惟代

―『敵討猫魔屋敷』の魅力  
翻刻『信夫摺在原草紙』

原田 佳美

―巻一、名席に注目して―  
翻刻『小夜衛真砂物語』

村上 幸代

―『賊禁秘談』『絵本太閤記』と比較

してー

竹本 夕貴

〔寺杣ゼミ〕  
小橋 佳希

金島 知樹

「帷子辻」考―美しさと腐乱の狭間で―  
『仮名手本忠臣蔵』の考察

山田 沙紀

志賀直哉「剃刀」研究  
―三つの草稿からの考察―  
『盲人独笑』研究

和田 薫

―民衆は誰を見たか―  
草双紙における動物の性別について

〔柴ゼミ〕  
蒲原 裕美

―葛原勾当日記との比較から―

杉原しおり

『今常盤布施譚』論

〔柴ゼミ〕  
小池真理子

『欲望』における《欲望》  
―恋愛の可能性をめぐる―

〔楨林ゼミ〕  
田渕 里奈

乙一研究―『ZOO』を中心に―

松下 香絵

絵本作家・長新太作品におけるへ反復

上川 美鈴

島尾敏雄「死の棘」論

〔鷹橋ゼミ〕  
平田 美久

岑参の辺塞詩について

見分小百合

種村弘『手紙魔まみ、夏の引越し（ウサギ連れ）』考

山口すみれ

王維『輞川集』について  
―王維の見た風景―

長谷崎郁美

夢野久作研究

分島沙帆里

王昌齡詩「芙蓉樓送辛漸」について

永尾 優美

―「ドグラ・マグラ」構造論―  
長野まゆみ『綺羅星波止場』研究  
―色彩を中心に―

〔光原ゼミ〕  
安部 達彦

新海誠「秒速5センチメートル」における文章と映像の受け取り方の差異について

大脇 友美

壺井栄研究  
―「大根の葉」五部作について―

上田恵里奈

小説におけるキャラクター描写の手法  
百人一首と創作

藤田沙十美

吉屋信子研究  
―「わすれな草」を中心に―

衛藤 清美

叙述トリックは何故面白いか

三好 加奈

森見登美彦研究  
―「四畳半神話大系」の方法―

鎌倉 勇弥

香月日輪作品における三人の登場人物の比較

後藤 晃

国産ハードボイルドにおけるスタイルの比較

中根 香織

梨木香歩作品における『銀』の役割

藤川 希

村上春樹作品における手紙 コミュニケー

ション方法

松田 佐穂

恩田陸『麦の海に沈む果実』における親

子の関係性

丸亀由依乃

ミステリーにおける日本の短編連作の特

徴

〔小畑ゼミ〕

阿部 瑞生

『V for vendetta』の仮面と傷

上林 尚子

文学テクストに表象される、構造的母娘

関係が呼びだす「象徴的（母殺し）」

―京極夏彦『姑獲鳥の夏』を主軸に―

笠井 潤一

三島由紀夫におけるバタイユ

中村 祐麻

松尾スズキとブラックユーモア